

使えない型の姫を性処理用にリサイクル！



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ファントムオブ汁

(セブンス編)

異族を倒し、人々を守りながら戦うキル姫たち

華やかで、苛烈なその立ち振る舞い

だが、

誰もが戦いに十分な力をもって産まれてくるわけではない

教会は戦闘に向いていないキル姫たちを

士気高揚や接待に使う慰安用に割り当てた

そうすることで秩序を保ち、圧倒的な力を保持しながら

世界を支配しているのだ

「あームラムラしてきた…」

ケツをあけてうっ伏せになれ！」

クッ

ドクッ

ズッ

「ああ、用意するので少しお待ちを…っ！
がっ、ひいっ…！」





「うん、うん……やはり即挿入は痛いほどに締まるな……」
「この具合のよきは一人前だなぞ」

「……ありがとうございます……」

「貴方の愛を、子宮で感じられて嬉しいです」

「見た目の美しさと具合だけなら有能だからな…」

くっ、締まる。すぐに固めてしまおう。だ
中を出すか、いやな。」

ぽんっ

ぽん


ぽん。

ぽん

ぽん

「あ、あああー！もちろんです……！
貴方の愛を私に注いでください……！」





戦いを宿命付けられたキル姫
戦力にならなければ使い道は一つしかない…



「素晴らしいですわ…」

こんなに濃いのが大量で…」

「おろが…」

はぁ♡
はぁ♡

はぁ♡
はぁ♡

はぁ♡
はぁ♡

はぁ♡
はぁ♡

「はぁ…はぁ…」

またうらうらしたらアチこむから

いつでも準備しておけよ」

「なんで私がこんなことしなきゃいけないのよ！
あつ、ちよつ、そんなに乱暴にしないで！」



「おまえが使えないからこうやって価値を見い出してやってんだ
少しは感謝しろよ」

「なっ！っ！この私が使えないですって！っ！
今に見てなさい、少し本気を出せば……！」



「うるせーな、さっさと仕事をしろって」

「……」

グ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ

ア
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ



「ふん、ふん……ちゅぽぽぽちゅぽぽぽ」

「ふー、そうだよ
そうやって大人しく言う事を聞いてればいいんだよ
やれば出来るじゃないか」





男たちはグリモワールを壊す勢いで乱暴に腰を叩きつけ
休む間もなくしゃぶらさせた…

「ようやく大人しくなったか
いい子にしていれば世話はしてやる
嬉しいだろ?」



「よし、特訓開始だ。
入れるからな、おおう……」

「はい、お願いします……うー」

お

不
不
不

ア
利



「おまえみたいな外れ型は
特訓しないと強くなれないからな……
しつかり締めろよ」

むにっ
きゅっ
きゅっ

「あっ、ああ、はいっ……
頑張りますので……」





「ああ、さくら...
この調子ならすぐに強くなれるぞー!」

井

井

ア

ア

ア

「きゅ……」

さすが腐ってもセブンスクラスだな……！
そろそろ中に出すからな？
ありがたく受け取れよ」

アッ
アッ
アッ

ほ

ほ

「あぁっ……あっ、どんどん大き……！
あっ、あッ、あぁあ……っ……」





「熱い……これが、力の源……」

ニヤッ

「……うおおおおおへ、さあへ」

ドッ
ドッ

「はあ、はあ…具合はよかつたぞ
続けて行くからしっかりしてなよ」


は

は

は
は

「は…(指)指導の程よろしくお願ひ…」





もちろん男たちはフォルカスを戦力としては微塵も思っていない。
かわるがわるに好き放題膣を突きあげ、中に出した。



「あ、あ、あ...はあ...ん...」

あらん...

あ

あ...あ...

「この器を尻ら辺が限界か。
処分する前に使いたい奴は好きにしてあげな」

あ

あ

END



おまけ

命令には従順なのでセックスには応じるが
あくまで事務的に対応するキル姫たち
恋愛感情などあるはずもなく、
ただ精子を出させてもらってるだけに過ぎない…



「ほらっ、早く出してくださいますか。」

「私も眼ではないので、手短かに済ませてくださいますか。」

「わ、わかってるー言われなくてもすぐ出てくるから……！」

ぽん ぽん

ぽん

ぽん



「まあ、量だけは結構出ますわね…」

「人間二つくらいは取り柄があるものですわね」

「う、うう…気持ちよかった…」

「グリモワールさんに絞り取られるっ……！
おおおっ」

「だ、出すよっ……ちゅっちゅい腔に精液注ぎ込む！」



「きつたないわねえ、ほんつつと最悪

なに？もう萎えたの？

このグリモワール様が相手してやつてんだから

さつさと勃起させなさいよー！

「ちよら、休ませい……ん……」



「はっ、はっ、いいぞフォルカスっ……!!
おもしろく……どうだったっ、感じるか!」

たんっ

たんっ

たんっ

ズッ

ズッ

「いえ、特には……。
自主鍛錬したので、
一秒でも早く終わらせて頂けると幸いです。」



「おっ……おっ……おっ……」
「絞り取られる……ん……ん……」



「終わりましたか。
それではまた御用の際はお声掛けくださいませ。」